

双塔

新潟教会 2014年6月



あけぼのの光を迎える歌

助任司祭 ナジ・エデルベルトゥス

衣替えの月である6月が来ました。昨年の6月上旬まで、カッコウの鳴き声を聞きました。今年は来るかなと楽しみに待つ人、あるいはホトトギスが鳴くのを待つ家康様のように忍耐強く待つ人もいるかもしれませんが。昔、北ヨーロッパでは、ポケットにお金を入れておいてカッコウの初鳴きを楽しみにしていたそうです。鳥の初鳴きを聞く時にポケットの中のお金を掴む人は1年中金が欠けることなく商売も続けられると信じた人がいたそうです。(カッコウの声を聞けば金なり信心でしたね。柿食えば鐘が鳴るなりの俳句を真似た冗談です)。

他の鳥と同じようにカッコウも声を出しましたが、歌声として受け取る人がいれば泣き悲しんでいる声を聞き取る人もいます。夕方に鳴くカッコウの声は悲しい声になり、自分の辛い経験を思い起こさせると言う理由でカッコウを殺してしまう話もありました。それでも次の春にカッコウの鳴き声が聞こえるので、「カッコウは死なない」と市民は喜びを取り戻しますと言う歌もあります(ドイツの民謡)。

さて、今月、私達は荒れ野で叫ぶ声を出す洗礼者ヨハネの誕生を迎えます。ヨハネの声はヘロデの耳触りになりましたが、多くの人にとって喜びにつながる声ですね。聖アウグスチヌスは、他の聖人と違って洗礼者ヨハネは母の胎内から聖霊に満たされたので、彼の誕生日が記念日になっていると理由付けました。イエス様より6ヶ月早くヨハネの誕生を迎えるザカリアの賛歌(ルカ 1. 67-80)を読むと、家族の喜びを読み取ることができ、救いの歴史の中のヨハネの役割も理解することが出来ると思います。昔からベネディクト会修道院で朝の祈りに加えられたこの歌は、二つの部分から成り立っています。

ア. 一人の指導者がダビデの家から出るという、神がダビデにされた約束が実現することに感謝する部分です。神様は約束された通りに“救いの角”を与えられ、イスラエルを平和の道に導いてくださるからです(ルカ 1. 67-75)。

イ. 洗礼者ヨハネは罪のゆるしを告げ知らせるために叫び、神の道を準備するために先立つ預言者の部分です(ルカ 1. 76-80)。

祈りと働きを大切にされた聖ベネディクトは、この歌が新しい朝を下さる真の光であるイエス様に相応しい感謝の歌になると思って朝の祈りの部分に加えたのです。たまたま歌の初めの言葉「ベネディクトゥス・ドミヌス・デウス(“Benedictus Dominus Deus”) : 主なる神はたたえられよ」と聖ベネディクトの名前が似ていてベネディクト讃美歌とも呼ばれますが、現代まで多くの修道院で新しい朝を迎えることを許して下さる神への感謝の歌になり続けていますね。

「主はわたしの光、わたしの救い」(詩編 27. 1)。この詩編はザカリアの賛歌より先にありましたが、9ヶ月間喋ることが出来なかったザカリアの喜びと感謝は先の歌の中に込められています。今月から朝の祈りを忘れないように努力し、圧迫されて声を出すことが出来ない状況の下に居る人のためにも思い出しましょう。

そよかせ便り

■復活節 第2主日 「神のいつくしみの主日」 ————— 4月27日（日） —————

復活節第2主日は『白衣の主日』と呼ばれてきたが、教皇ヨハネ・パウロ2世は、ご復活の主日の次の日曜日（復活節第2主日）を『神のいつくしみの主日』と定め、特別の信心を行うよう望まれた。それに因み、新司教館の竣工記念ミサ（5月10日）を控えた新潟教会では、敷地内の草取りが行われ、教会学校の子どもたちも積極的に奉仕を行った。



【写真：L'Osservatore Romano】

「二人の聖人が、私たちがキリストの傷につまずくことなく、神のあわれみの神秘に深く歩み入ることを教えてくださいますように。神のあわれみはつねに希望し、つねにゆるします。なぜなら、つねに愛するからです」と締めくくられた。（Italia 語 翻訳：広報部）

また、この日、パチカンのサンピエトロ広場では、二人の教皇福者ヨハネ23世と福者ヨハネ・パウロ2世の列聖式が行われた。教皇フランシスコと前教皇ベネディクト16世、枢機卿150名、司教700名の共同司式で行われ、約80万人が参加した。教皇様は「聖ヨハネ23世と聖ヨハネ・パウロ2世はイエスの傷を見て、自分の手で釘痕と槍に貫かれた脇腹に触れることを恐れていなかった。聖ヨハネ23世は、聖霊に従順な教皇であり、聖ヨハネ・パウロ2世は、一般の民に奉仕した“家庭の教皇”であった」と話され、

■新司教館竣工記念ミサ ————— 5月10日（土） 11:00～ —————

この日は、東京教会管区の司教様方が全員、新潟教会聖堂に集結。司教6名、司祭30名余の共同司式による新司教館竣工記念ミサ・式典が執り行われた。式典で、東京教区の岡田武夫大司教様（さいたま教区管理者を兼務）は、東京教区と新潟教区の絆について触れ、その表れとして前新潟教会主任司祭、江部純一師の派遣を挙げられた。ミサ後に、司教館の建物が祝別され、中庭では、青空の下で、ビュッフエスタイルの祝賀会が行われた。華やかな衣装で身を包んだ新庄教会のフィリピン出身の皆さんがダンスを披露。参加者の喝采をあげた。

ミサ時間のご案内

† 主日（日曜日）7時・9時半・12時※・18時
※第1日曜日は英語ミサ

† 週日（金曜以外）7時

† 金曜日10時（第1金曜日10時・18時）

カトリック新潟教会 月刊「双塔」

毎月1回 最終日曜日発行

編集・発行/カトリック新潟教会 教会運営委員会 広報部

〒951-8106 新潟市中央区東大畑通一番町656

TEL：025-222-5024 FAX：025-222-5054

<http://www.niigatacathedral.org>